

## 富良野市の景観づくりの基本理念について

## (1) 第2回 富良野市景観計画策定委員会 基本理念 (事務局 案)

案1 ふらの<sup>そうほう</sup>にいだかれた 田園共生都市

案2 <sup>みねみね</sup>峰々の自然と営みが共生する みどりの国際都市

## (2) 第2回 富良野市景観計画策定委員会で出された意見

- ・長期的に景観づくりに取り組んでいくことを踏まえるとマネジメントの視点は必要である。
- ・富良野市を「都市」というのは違和感がある。より富良野らしい文言があるのではないか。
- ・「田園共生都市」はフレーズとして固い印象を受ける。
- ・「国際都市」は“今後、目指していく”という意味であってもよい。
- ・「国際都市」を別の表現で言えないか。都市というと10万人規模のイメージである。富良野市はコンパクトな「まち」という表現が良いのではないか。
- ・事務局提案の理念は行政的な固さを感じる。もう少し市民に分かりやすく親しみのある文言を選びたい。
- ・案2で使われている「みどり」は、冬季はみどりが少なくなるため適さないのではないか。四季を通して使えるフレーズであるべきだ。
- ・「共生」という視点も、自然と暮らしが両立する持続可能な印象があり分かりやすい。
- ・「双峰」というと、市街地に限定されてしまう。小中学校の校歌も十勝岳連峰と芦別岳について歌っているのは市街地のみと思われる。
- ・案2の「峰々」だと山を限定されないので市内全域を対象とできる。
- ・暮らしそのものが景観を作っていることから、「営み」ではなく「暮らし」ではどうか。

## (3) 基本理念に関する各委員の提案

## ■藤本多佳子 委員 「北国の四季の暮らしが創り出す自然と文化のまち」

コメント：キーワード「北国」「文化」「暮らし」があれば良いかなと思っています。

## ■田澤 豊 委員 「峰々の自然と暮らしが共存する国際都市ふらの」

コメント：案2に対して、「ふらの」の文字を入れることでイメージがわかりやすいのではと感じます。また、「みどり」は四季に疑問があり削除しました。

## ■西本伸顕 委員長 「人々のくらしと自然が共生する快適田園都市」